蝶千種

一

Chō senshu. [v.1] By Yukiyoshi Kamisaka.
[1904]
A page will be turned each day.

蝶子　種竹郎

あたゝかき野邊の、なかめしはし、そことゝもなくいとに
あくかれ渡りしが、けふは風さへなきまゝに、蜂の
つはさをあふる羽々に春風のありなし。眠氣さへ
そよほさるゝに、まして耳あるさけひの鳥と、ひとりうち
誦して、ゆかまし、霧の帳おしひらきて、たんぽゝの
はなさくちまのあたりより、くれなゐきたる少女かうちとけ行。
縷やかなる、はまきを着よそへるあまた、赤き黄なるなど、
まじりて漆めかし・たち舞ひてあり。いかにも志るき、
あるはくろき、くろ紫に緋、あるは又、まだらなど、

おほしまとりよせつらん、野邊の露まておきそへゝかゝみとかゝまや
この春は、またきに昔の法なく、露國を攻めさせま
つまその勝いくさを、よろこびて女童まての、のこりなくよろこひ
たゝへるなりけんとりなるは、かゝりしものゝ中に、とりわける
花のさかりに、むらかりあつまりく、舞ひさわくめり。
靈の戰に死しけるものや、そのまことをあらはし、おもひ
さとるまゝにみより來て、一人まくらの夢の莚にもおと
としまするさまを、以て傳へ、おのおのもまた遊ふこと
ろうりきたりまて來や、とゝく、かゝる風流りよ、
あてゆきさく、法ていふやうり、若葉のもみぢにそよふ、

わかきころのことおもひしは、君もわすれしにかはりなむぞかる
まくらのちかきやさとしころ、書をいふりの伊勢とくまなり
て、懐古のむかしの昔物語をきゝつゝ、とかく語る
ことありけるとて語に、ひとかたならず、おほえたるは、
これもむかしのことなれとも、あはれなるや。ゆくは
つねにいひて川くましきことなり。おもひしるへし
はかなくしも著しにけれは、おもひ給ひてまうてし
ともすれは、いはれしかな、流れいさまの、ころは
まくけれとも、そのあはれやうにうつくし。きこえ給ふ、
せめてくるしみのみなれは、いかゝは、わかれをおもふ

ゆきのはあかねとかく流させたちのさま、みんの
うきむすびゆくまゝうくうらみなきまま絶え
まきし、まかまひとの堂をあまり。いら傳ふらく
うれしとおもひいとぶさらば、かへすゝみことは
すゑつりけらむ様ゝしハ、神坂靈佳めかなり。
まちむかへて、かゝりしの事といへば、せちねうふ
とらへなりとく、居りて帝傳とゝくらうしまふ
せば、ちゝもかくこそよといひなまゆうちひとりかくらの
さゆまいいのゑおもかりみていつになきはなれて、
とゞ絶ゆくまつりの、舞ひあそびたりげまつゝ

こゝをうつしとめて、かの紙をせんらまうんをへなは、
あはれ神まことよりもよくうつされたりとく
てぬ、又いにしへのくまでゆかむもおもはれ
こそ深くつましきことなり、らんしのまやとて、
そのうつせる画を数へつれは十を越え百あまりてなく、
手といふかたはさへなかなかにみしくもわかずなる
姿形をも人間のものともまつ侍ゝしかともなく
紙は、なまめきを見えかくもうつりくるまゝ、など
ろくゝは、いつくしきゆかしき数千の蝶の、かず
みえたるは、花はゆかに、秋の花は、春の花のとくいうち

ふきるなすり夕雲雀のおつる影まいそやけのへ日かへ
袖は雲雀あし訪ひまて、まさ木の頃は蝶の種といふ
そのかきたりばいろ絵の御文ぞといゝるまほしくはいへんし
夢の林のゆうきかくなむ。

明治卅七年の春

京都吉田の僑居にて

藤園乃あるし義象識



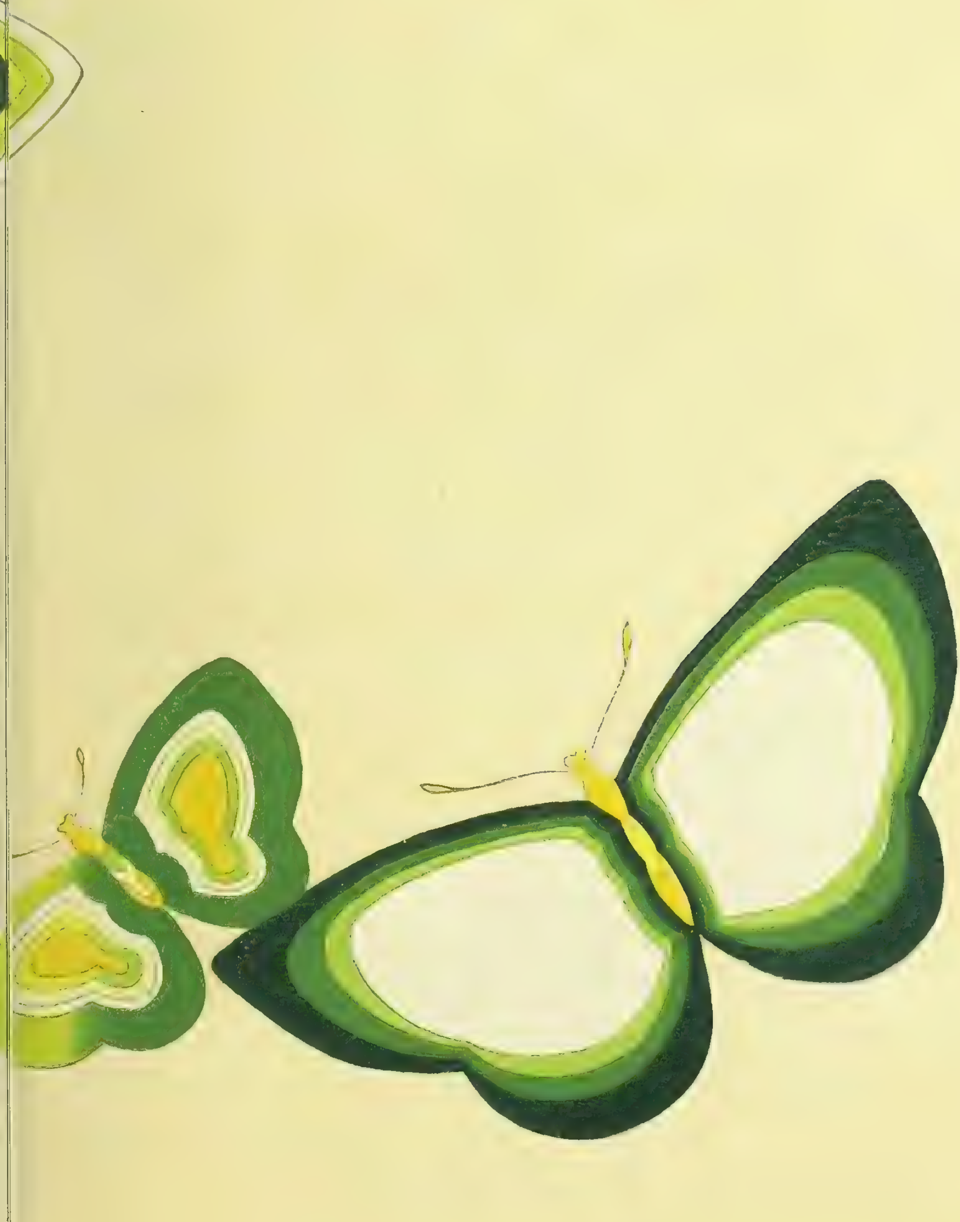




















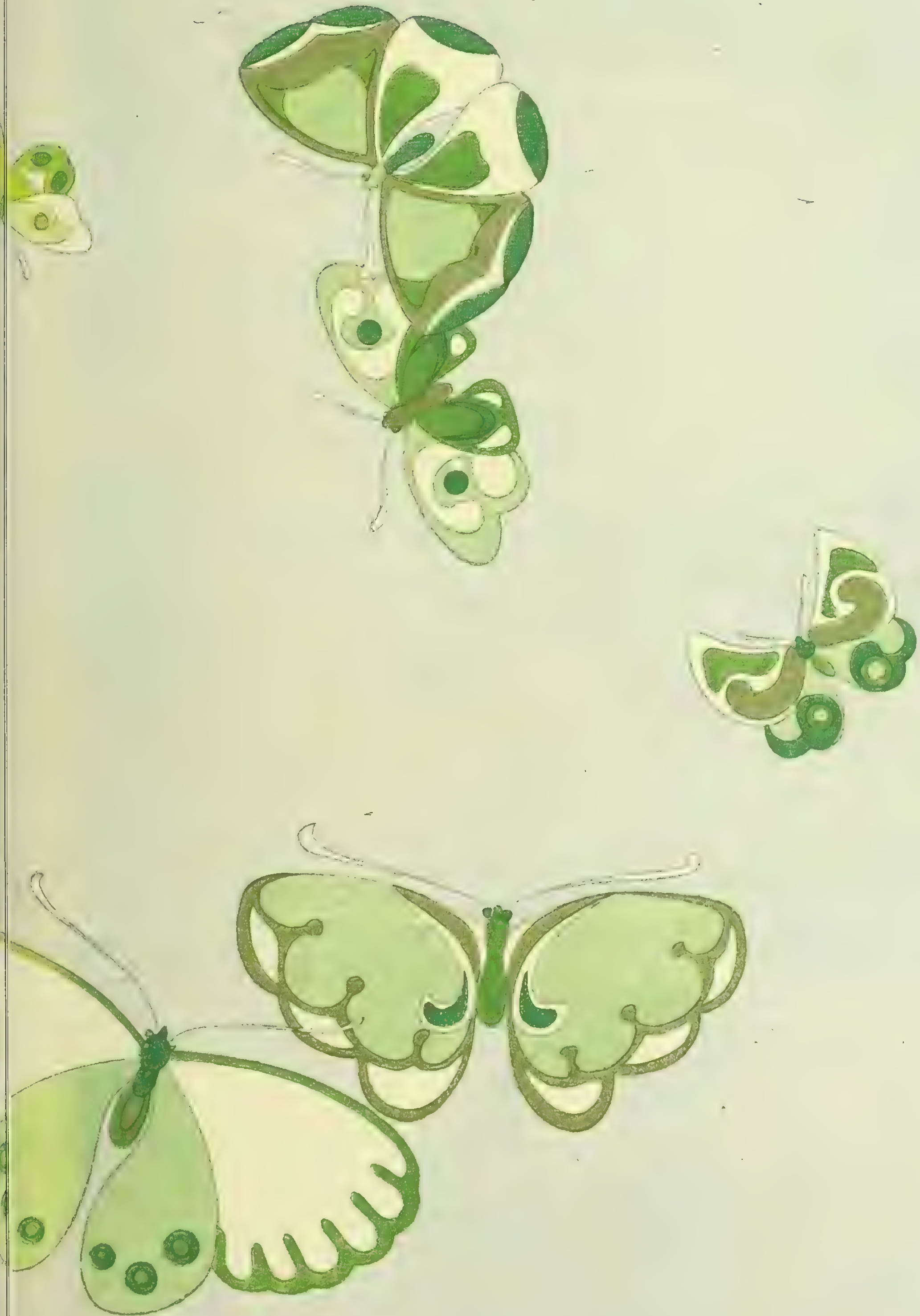


















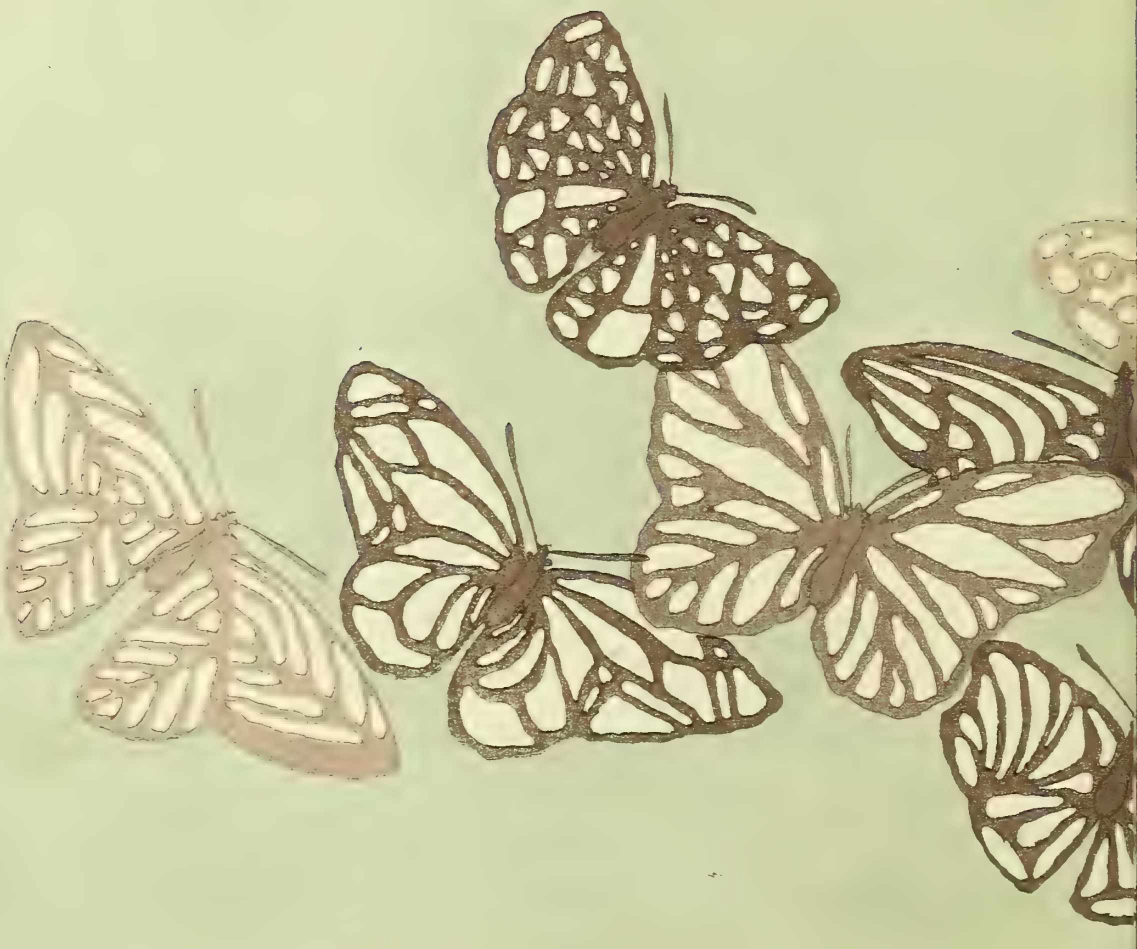





























































明治三十七年四月一日印刷
明治三十七年四月五日發行

著作權所有

著作者　神阪雪佳

京都市上京區寺町通押小路北入廿五番戸
發行兼印刷者　山田直三郎

京都市寺町通押小路北入
發行所　山田芸艸堂

特電話二百九十番